

令和2年2月5日

TATEYAMASABO

PRESS RELEASE

本紙投げ込みを以て解禁

記者発表資料
富山県政記者クラブ
業界紙(実業建設新報社
ケーブルテレビNET3)

令和元年度 立山砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会を開催

本施工管理技術研究発表会は、平成8年12月6日に発生した蒲原沢土石流災害を教訓に、これまで工事や業務で実施した安全施工の取り組みに関する技術を学び今後の安全施工に係る技術の向上を図ることを目的に毎年論文発表を行っています。

平成11年度から始まり今年で21回目を迎えます。

本年は28編の応募の中から他の模範となるものについて発表を受け表彰することとしています。

開催日: 令和2年2月12日(水)13時00分～17時00分

会場: ポルファートとやま 2階多目的ホール(真珠の間)

発表会次第: 記者発表資料 別紙のとおり

参加人員: 220人程度

発表論文: 7編

応募論文: 28編(立山砂防事務所発注工事22編、業務6編)

表彰: 最優秀賞 1編、優秀賞 2編、奨励賞 4編を予定

主催: 立山砂防事務所工事安全対策協議会

後援: 富山労働基準監督署、魚津労働基準監督署

建設業労働災害防止協会富山県支部、(一社)富山県建設業協会
富山市建設業協会、立山町建設業協会、実業建設新報社、
富山県土木施工管理技士会、砂防施工管理研究会

取材上の留意点

- ①取材は開会から閉会挨拶まで可能です。
- ②会場内に記者席を用意して有ります。
- ③論文集等の資料は当日受付でお渡しします。
- ④名刺等をいただければ表彰結果を別途お知らせします。

お問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局 立山砂防事務所

副所長(技術) 吉村 明(よしむら あきら)

総括保全対策官 佐々木 誠(ささき まこと)

電話 076-482-1111(代表)

FAX 076-482-1101

立山砂防事務所

〒930-1405 富山県中新川郡立山町芦峯寺字ブナ坂61番地

<http://www.hrr.mlit.go.jp/tateyama/index.html>

QRコードはこちら



国土交通省北陸地方整備局

令和元年度 立山砂防関係工事安全施工管理技術研究発表会

日時 令和2年2月12日（水） 13時00分～17時00分
 会場 ボルファートとやま（富山市奥田新町8-1）
 主催 立山砂防事務所工事安全対策協議会
 後援 富山労働基準監督署、魚津労働基準監督署、建設業労働災害防止協会富山県支部
 （一社）富山県建設業協会、立山町建設業協会、富山市建設業協会、実業建設新報社
 富山県土木施工管理技士会、砂防施工管理研究会

次 第

■工事安全施工管理技術研究発表会

2F 多目的ホール（真珠の間）

- 13:00 開 会
 主催者挨拶 工事安全対策協議会長（立山砂防事務所長）
 後援機関の紹介
 審査委員の紹介
- 13:15 論文発表及び質疑応答（発表12分、質疑3分）
1. (株)干場建設 山崎 太平
 論文No6 長大法面の施工における安全対策について
2. (株)岡部 川嶋 大樹
 論文No9 無人化施工におけるICT技術導入効果について
3. 石黒建設(株) 発田 寛樹
 論文No13 残存型枠組立て時における現場無溶接化の改善について
4. 高尾建設(株) 堀 優寛
 論文No16 狭小な床掘地内での作業がともなう砂防堰堤工事の安全対策
- ※各論文発表後その都度、質疑応答をしていただきます。
- 14:15 (休 憩 14:15～14:30)
- 14:30 5. ダイチ(株) 沢田 一夫
 論文No17 軌道沿線工事における安全対策と作業の効率化
6. 水新建設(株) 老田 智博
 論文No18 砂防堰堤工事における熱中症対策への取り組み
7. (株)建設技術研究所 土井 康義
 論文No25 急峻地形かつ砂防堰堤施工中の溪流環境調査における安全対策
- ※各論文発表後その都度、質疑応答をしていただきます。
- 15:15 (休 憩 15:15～15:30)
- 審 査 論文審査（審査委員室）
- 15:30 特別講演 北陸地方整備局 河川部 地域河川調整官 福田 光生
 「ICT砂防とUAVの活用の取り組み実績と課題」
- 16:20 (休 憩 16:20～16:30)
- 16:30 審査結果発表 審査委員長：北陸技術事務所長
 16:35 表 彰 工事安全対策協議会長
 16:50 講 評 富山労働基準監督署長
 16:55 閉会挨拶 工事安全対策協議会副会長
 17:00 閉 会

【昨年度の実施状況】



発表会の様子(215名の参加)



発表状況



受賞者との記念撮影



特別講演
「砂防工事における生産性向上と安全確保」